

校長室だより 第2号

平成28年4月27日
岸和田市立葛城中学校
校長 瀧 俊彰

当たり前前の生活が平凡な幸せかもしれません。

新年度が始まり三週間が経ちました。生徒たちの学校生活を見ていると、どの学年も良いスタートが切れたなあとお大変うれしく思います。私は毎朝、岸城塔原線の葛城中学校への入り口の押しボタン信号の所であいさつに立っています。葛城中学校の生徒、卒業生、地域の方々と「おはようございます」というあいさつから一日が始まります。どの生徒も気持ちよく挨拶してくれます。特に1年生の明るい元気なあいさつが目立ちます。また、新学期になって遅刻者がなくなり先生方と一緒に喜んでいきます。

さて、熊本県を中心に4月14日の午後9時26分に最大震度7の前震、4月16日の午前1時25分に最大震度7の本震がありました。14日以降もたびたび地震が起こり今も続いています。住民の皆様の不安な気持ちをお察しいたします。熊本県を中心に今日現在で死者が49名、行方不明者が1名、家屋が壊れ避難所生活を送る人が約20万人にものぼりました。ライフラインは徐々に回復してきていますが、まだまだたくさんの方々が不自由な生活を余儀なくされています。また熊本県下の小中学校の約半数にあたる287校が授業のできない状態になっています。一日も早く元の学校生活を送れることを願うしかありません。そして熊本の一日も早い復興を願います。そのために私たちができることを職員と生徒会で考え、実施していきます。

毎朝「おはようございます」とあいさつし、一日の学校生活が終わり家族と一緒に温かい食事をし、家族で話をし、自分の家で自分のふとんでゆっくりと寝ることができる。本当に当たり前な生活こそが平凡ではありますが一番の幸せな生活かも知れません。熊本県の被害の様子を見てそのように感じるとともに今の自分の生活に感謝する気持ちを忘れないようにしたいものです。

家庭訪問に伺っています。

4月25日より4月28日まで家庭訪問を実施し、各担任がそれぞれの家庭をお伺いしています。家庭でのお子様の様子や気がかりなこと、また学校への質問、要望も聞かせていただきました。かけがえのない一人ひとりの生徒を中心に据え、家庭と学校がしっかり連携しながら子どもたちを育てていきたいと思っています。

家庭訪問



